

2021年9月新着情報



ILC-Japan または ILC-GA メンバーが関わった／関わっている
イベント／取り組み

- **オランダ: Wanted: older dance talents シニアダンサー求む！ (9/22、ILC オランダ)**
 - <https://www.leydenacademy.nl/older-dance-talents-wanted/>
 - ダンスは体だけでなく心の健康にも良いのは、年齢に関わらず言えることだが、TikTok やインスタグラムなどソーシャルメディアのダンスでは、若者が大半を占めている。ILC オランダが所属する Leyden Academy および Jo Visser Fund はこの度、「Danstalent」(ダンスタレント)プロジェクトを立ち上げ、シニアたちのダンスを披露していくこととなった。応募できるのは55歳以上のダンス愛好家であり、自分たちの短いダンス動画(3分以内、携帯電話で撮影)を10月11日までに送付するよう求めている(応募詳細は上記URL参照)。ダンスの種類は問わず、サルサ、バレエ、モダンダンス、ワルツ、ヒップホップ、車いすダンス、ラインダンス、タップダンスなど、どれも歓迎である。動画と一緒に、簡単な背景ストーリーについても情報を求めている(そのダンスの意味や思い出など)。応募者の中から選ばれた人には、プロの撮影を行ってソーシャルメディアを通じて配信し、ダンスチャレンジを実施して若者にも参加を呼びかける。このプログラムを通じて、世代間交流の促進と共に、高齢者の描かれ方の改善を目指している。



海外での興味深い取り組み・ニュース

- **【コロナ関連】先進 11 か国: 米国の高齢者は他の先進国よりもコロナの経済的打撃が深刻 (9/15)**
 - <https://www.theguardian.com/business/2021/sep/15/older-americans-financial-challenges-covid>
 - <https://www.commonwealthfund.org/publications/surveys/2021/sep/impact-covid-19-older-adults>
 - アメリカの高齢者は、他の先進国よりも新型コロナウイルスの経済的打撃を大きく受けていることが、調査で示された。Commonwealth Fund が 2021 年 3~6 月、先進 11 か国(オーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、スウェーデン、スイス、英国、米国)の高齢者を対象に調査を実施したところ、コロナ禍の中で貯金をすべて／ほとんど取り崩したり収入源を失った人の割合は、米国で 19%と最も高かった。続いて高かったのは、カナダ(15%)やオーストラリア(14%)であり、最も低かったのはドイツ(3%)だった。米国では特にラテン系アメリカ人(32%)やアフリカ系アメリカ人(32%)で経済的困難に直面した人の割合が高かった。また複数の慢性疾患を抱える高齢者に対し、コロナ禍における病院の予約キャンセル／延期について尋ね

たところ、ここでも米国で割合が最も高く、37%だった。カナダ、オランダ、英国もキャンセル／延期の割合が高かった(ともに32%)一方で、ドイツでは11%にとどまった。同調査では、コロナ禍における日常生活支援の状況やワクチン接種状況などについても分析を行っている。

● **欧州: EU 諸国全体で老年人口指数が上昇(9/30)**

- <https://ec.europa.eu/eurostat/web/products-eurostat-news/-/edn-20210930-1>
- 老年人口指数は(65歳以上人口)／(20～64歳人口)×100で計算されるが、これがEU諸国全体において、この20年間で大幅に上昇したことが分かった。2001年はこの指数が25.9%であり、これはつまり、65歳以上の人1人に対して20～64歳以上の人が4人弱という計算になる。しかし2020年には、この指数が34.8%まで上昇し、つまり高齢者1人に対し20～64歳の人が3人未満となった。指数が特に高かったのは、主に東ドイツ、スペイン、フランス、イタリア、ポルトガルおよびフィンランドの農村や山間地域であり、若者の流出(学業や就職のため)が要因の一つと考えられる。今後30年で、老年人口指数はほぼすべてのEU地域で上昇すると見込まれており、EU全体では2050年までに、56.7%に達すると予測される。

● **英国: 女性年金受給者の貧困率が10年弱で約6ポイント上昇(9/20)**

- <https://www.ageuk.org.uk/latest-press/articles/2021/new-age-uk-analysis-finds-one-in-five-uk-women-pensioners-now-living-in-poverty/>
- <https://www.ageuk.org.uk/globalassets/age-uk/documents/annual-reports-and-reviews/age-uk-pensioner-poverty-report.pdf> (年金受給者の貧困に関するAge UKの報告書)
- 英国の高齢者団体Age UKが最近行った分析によると、英国人女性年金受給者の貧困率が、この10年弱で6ポイント上昇し、5人に1人となった。女性の年金受給開始年齢は上昇したため、受給者数は2012年以降で約80万減少した一方で、同グループでの貧困者は約26万増加した(99万→125万)のである。2010年までは、年金受給者の貧困対策が効果を見せていたが、近年は急速に逆行が見られる。特に独居女性は貧困率が高く、夫婦で13%、独居男性で23%なのに対し、独居女性は27%となっている。また黒人やアジア系も貧困率が白人より高いほか、賃貸住宅に住む人も住宅保有者より高い貧困率が見られる。上記の報告書では更に詳細を紹介している。

● **英国: 世界アルツハイマーデーの支援にスポーツ選手が参加(9/21)**

- <https://www.alzheimers.org.uk/news/2021-09-21/alzheimers-society-announces-roster-sport-united-against-dementia-champions-world>
- <https://www.alzheimers.org.uk/get-involved/events-and-fundraising/sport-united-against-dementia-suad> (Sports United Against Dementia ウェブサイト)
- 世界アルツハイマーデー(9/21)に向け、英国ではスポーツやテレビのスターたちが支援に乗り出した。アルツハイマー協会では、新たなプロジェクト Sports United Against Dementia (SUAD)を立ち上げ、スポーツ業界とのパートナーシップを通じて認知症に取り組んでいる。この度、元サッカー選手のデニス・ロー氏やハリー・レドナップ氏などがSUADの支援者となった。SUADでは認知症の人たちが、馴染みのあるスポーツクラブ

を通じて地域とつながり続け、スティグマを軽減し、また同協会の支援サービスについて認知度を高めることを目指しているほか、募金など資金調達も行い、認知症の理解深化にも役立っている。

- **英国:英国のエイジフレンドリー・コミュニティが 50 超に(9/23)**
 - <https://www.ageing-better.org.uk/news/major-milestoneuk-network-of-age-friendly-communities-is-now-50>
 - 英国のエイジフレンドリー・コミュニティの数は、この度新たに 6 か所の地域が加わったことで、52 となった。エイジフレンドリー・コミュニティは、あらゆる年齢の人々が健康でアクティブに高齢期を過ごせる場所のことであり、この枠組みは世界保健機関が高齢者と協議の上で作成した。
- **米国:ウーバーヘルスがテキサスのメディケイドで医療送迎サービス提供開始へ(9/1)**
 - <https://patientengagementthit.com/news/uber-health-extends-medical-transportation-to-tx-medicaid-members>
 - ウーバーヘルスとテキサス州のメディケイド(低所得者用医療プログラム)がこの度提携を結び、患者の予約通院における送迎サービスをウーバーが行うこととなった。この送迎費用は、メディケイド給付の一環としてカバーされる。メディケイド給付には、食事や商品の配達も含まれており、食糧安全保障の面でも支援を行っている。ウーバーヘルスでは現在、アリゾナやインディアナなど他州でも医療送迎サービスを提供している。
- **【コロナ関連】米国:各ナーシングホームのワクチン接種率がオンラインでチェック可能に(9/22)**
 - <https://apnews.com/article/business-health-coronavirus-pandemic-medicaid-nursing-homes-94a2d81e805f18990e75cbb14345f530>
 - <https://www.medicare.gov/care-compare/#search> (ナーシングホーム検索サイト)
 - 米国では、高齢者介護施設での新型コロナウイルス感染が大きな問題となっており、施設入居者や職員のワクチン接種が優先的に進められてきた。しかし全ての施設でワクチン接種が同様に進んでいるわけではない。そこで Medicare.gov サイトでは新たにコロナワクチン接種率のデータを追加し、消費者が確認できるようにした。上記 Medicare.gov サイトの Care Compare(ケアの比較)ページで各施設の情報を検索すると、そこに職員と入居者の接種率に関する情報も掲載されている。また国や州の平均も掲載されているため、比較もできる。
- **米国:「スター・トレック」のカーク船長、90 歳で実際に宇宙へ(9/26)**
 - <https://abc7.com/william-shatner-space-star-trek-blue-origin/11045163/>
 - <https://mainichi.jp/articles/20210929/k00/00m/030/043000c> (日本語情報)
 - 人気SFドラマシリーズ「スター・トレック」で、宇宙船U.S.S.エンタープライズ号のカーク船長を演じたウィリアム・シャトナー氏が、90 歳にして実際に宇宙へ旅立つ見通しとなった。アマゾン創業者ジェフ・ベゾス氏が 10 月に実施予定である次回ロケット打ち上げに、シ

ヤトナー氏も参加する予定。ベズス氏は今年7月にロケットを初めて打ち上げ、82歳のウォリー・ファンク氏が参加し宇宙飛行の最年長記録を更新したが、シャトナー氏の飛行が実現すれば、記録が更に塗り替えられることとなる。

- **オーストラリア: Aged Care Council of Elders(高齢者ケアに関するシニア評議会)設立に向けた動き(9/30)**

- <https://www.health.gov.au/resources/publications/aged-care-council-of-elders>
- <https://www.health.gov.au/committees-and-groups/aged-care-council-of-elders> (評議員推薦の詳細)
- 高齢者ケアの質と安全に関する王立委員会の最終報告を受けて、オーストラリア政府では、177億豪ドルを投じて高齢者ケアの改革に取り組む。数十年に一度となるこの大規模な高齢者ケア改革では、高齢者の尊重、ケア、尊厳を重視しており、その取り組みの一環として、Aged Care Council of Elders(高齢者ケアに関するシニア評議会)が設立されることとなった。この評議会は、任命されたオーストラリアの高齢者から成り、自らの経験を活かして政府へ助言を行。これにより、システムの中核的存在である高齢者自身が、その方向性を定めるのに貢献できるようにしていく。また高齢者の意見を代表するために、同評議会では全国の高齢者と協議できるようにする。政府では、評議会の初代メンバー推薦を募集しており、10月15日まで受け付けている。推薦の詳細は、上記URLを参照。



海外／国際機関で最近発表された法律・規則・提言など

- **英国: 保健・社会的ケアサービス改革に向けた360億ポンドの投資(9/7)**

- <https://www.gov.uk/government/news/record-36-billion-investment-to-reform-nhs-and-social-care>
- <https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/09/8446fac7a44f665b.html> (日本語情報)
- ジョンソン首相は9月7日、今後3年間で360億ポンドを投じ、医療および社会的ケアの改革に取り組む案を発表した。この計画には、新型コロナウイルスによって遅れが出た医療への対応や、成人向け社会的ケアの改革、医療と社会的ケアの統合などが盛り込まれている。2022年4月から国民保険料を1.25%引き上げる予定だが、労働者と雇用主がそれぞれ支払う国民保険料が対象となることから、会社員の場合、給与に対する税率の引き上げ分は実質2.5%となる。2023年4月からは1.25%分を国民保険料から分離させ、同率の別の税が適用され、国民保険料の税率は引き上げ前の水準に戻る予定。本計画を発表したジョンソン政権に対し、一部からは選挙公約違反だとの批判も出ている。なお本案は9月8日の下院の第1読会で、賛成多数で可決された。

- **【コロナ関連】英国: 冬に向けて成人向け社会的ケアへさらに資金を投入(9/30)**

- <https://www.gov.uk/government/news/additional-funding-to-help-adult-social-care-this-winter>

- 来る冬に備え、社会的ケアで新型コロナウイルスやインフルエンザの感染を予防するために、政府は3億8,830万ポンドの追加資金を投入すると発表した。このうち2,500万ポンドは、ケアワーカーたちがコロナやインフルエンザ予防接種を受ける際の支援費用に充てられ、この資金は、ケアスタッフが予防接種を受ける際の通常給与支払いや接種時の移動費支援に活用できる。ケアスタッフのワクチン接種率を上げるために、ケアワーカーが登録したかかりつけ医(GP)以外でも、接種が可能となる。また感染管理対策として2億3,700万ポンド、検査費用として1億2,630万ポンドが充てられる。



海外／国際機関で最近発表された／近日発表される 報告書・ガイドブックなど

- **国連: Global status report on the public health response to dementia (認知症への公衆衛生上の対応に関するグローバル・ステータス・レポート) (9/1、WHO 報告書)**
 - <https://www.who.int/publications/i/item/9789240033245> (全文へのリンクあり)
 - <https://news.un.org/en/story/2021/09/1098922>
 - https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/important_info/20210907_01.html (日本語情報)
 - 世界認知症行動計画の実施期間が半ばを迎える中、この報告書では加盟国、WHO および市民社会の進捗状況をまとめるとともに、特にコロナ禍による対策実施へのバリアや喫緊の課題についても整理している。報告書では、認知症の負担やコストについて最新データを紹介しているほか、62のWHO加盟国からの提出データも活用している。取り組みはいくらかの前進を見せているものの、2025年までに目標を達成するためには、更に加速させる必要がある。
 - **世界各国: World Alzheimer Report 2021 (世界アルツハイマー報告 2021) (9/21、ADI 報告書)**
 - <https://www.alzint.org/resource/world-alzheimer-report-2021/> (全文へのリンクあり)
 - 国際アルツハイマー病協会(ADI)が発表した2021年の報告書では、「診断」に重点を置いた。認知症の診断は現在も世界中で課題が多く見られ、診断を受けられたとしても長期間待たされることも多い。スティグマは社会だけでなく本人自身や臨床医によるスティグマもあり、問題を悪化させている。今回の報告では、以下の点が明らかとなった。
 - ◇ 世界中で認知症の人の75%(4,100万人相当)が診断を受けていない。
 - ◇ 臨床医によるスティグマは、現在も診断の大きなバリアとなっており、1/3が対応策は何もないと信じている。
 - ◇ 90%の臨床医は、新型コロナウイルスによって更に待機期間が長引いたと述べている。
 - ◇ 33%の臨床医は、認知症に対して何もできないと考えている。
- 報告書での主な提言は、以下の通り。
- ◇ 世界中の保健システムで、50歳以上の人へ脳の健診を毎年実施すべきである。
 - ◇ 世界中の政府は、更に正確な診断を早急に開始すべきである。
 - ◇ 人口高齢化、診断の改善、薬物治療の改善による医療サービスの需要急増に対して、政府は準備を行わなければならない。

- **英国: Build Back Better. Our Plan for Health and Social Care(より良い復興: 私たちの医療・社会的ケア計画) (9/7、政府計画)**
 - <https://www.gov.uk/government/publications/build-back-better-our-plan-for-health-and-social-care> (全文へのリンクあり)
 - <https://drive.google.com/drive/folders/1HKes9SCwcGePQiWD-0a2dUfGnaedqkph?wp-linkindex=6> (ツールキット)
 - この文書では、医療と社会的ケアに関する政府の新たな計画をまとめており、この計画がどのようにして、国民保健サービス(NHS)の課題に取り組み持続可能性を高めるのか、概要を示している。具体的にはたとえば、イングランドの成人向け社会的ケア計画(費用の上限設定、低所得者への経済的支援など)、より広範な政府の社会的ケアシステム、医療と社会的ケアの統合、医療・社会的ケアに関する新たな課税(上記の「法律・規則・提言」セクションも参照)などがカバーされている。

- **米国: Bipartisan Solutions to Improve the Availability of Long-term Care(介護の提供改善に向けた超党派のソリューション) (9/14、Bipartisan Policy Center 報告書)**
 - <https://bipartisanpolicy.org/report/improving-ltc/> (全文へのリンクあり)
 - 超党派による取り組みを推進するシンクタンク Bipartisan Policy Center(BPC、超党派政策センター)はこの度、介護の提供改善に向けた報告書を発表した。現在は 65 歳以上の人のうち半数が、生涯で何らかの介護支援サービスを必要とするようになり、人口高齢化と共にそのニーズは増大していく。ケア提供での課題には、コストも職員不足も含まれており、一つの策ですべての課題が解決するわけではない。サービスへのアクセス改善には、官民の選択肢を組み合わせることが必要であり、また連邦政府の資源投資も欠かせない。BPC の取り組みは、在宅および地域でのサービス提供改善、民間介護保険市場の状況改善、介護者への支援提供に重点を置いており、今回の報告書では、以下の提言を行っている。
 - ◇ 在宅・地域サービスへのアクセスを拡大する
 - ◇ 在宅・地域サービス提供の格差に対応する
 - ◇ 介護者の税額控除を設ける
 - ◇ 民間介護保険の継続性を高める
 - ◇ 介護の公共教育キャンペーンを立ち上げる

- **オーストラリア: 2020 Aged Care Workforce Census(2020 年高齢者ケア労働力センサス) (9/2、政府報告書)**
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/2020-aged-care-workforce-census> (全文へのリンクあり)
 - オーストラリア政府の保健省では、2003 年より 4~5 年ごとに高齢者ケア労働力センサスを実施しており、今回は第 5 回調査の結果報告となる。この調査の目的は、高齢者ケアセクターの労働力に関して、規模や特性、スキルなどの概要を定期的に発表し、良質なケア提供に役立てることである。2016 年の前回調査以降、高齢者ケア部門では政策・経済・環境面で様々な変化の影響を受けており、特に以下の影響が大きい。

- ◇ 世界的なコロナパンデミック
- ◇ 高齢者ケアの質と安全に関する王立委員会
- ◇ 全国障害保険スキーム
- ◇ Matter of Care(オーストラリアの高齢者ケア労働力戦略)

この報告書は主に3つのセクション(施設ケア、在宅ケア、連邦在宅支援プログラム)に分けられ、それぞれのセクションで労働力の概要をまとめている。内容としてはたとえば、働く人の特性(規模、職種、雇用形態、夜勤、年齢、性別、人種、資格レベルなど)、施設や事業者の特性(ケア職員の求人状況、ボランティアの支援など)、新型コロナウイルスの影響などがカバーされている。

- **オーストラリア: Outcomes of the Commonwealth Home Support Programme (CHSP) Wellness and reablement report 2019 – 2020(連邦在宅支援プログラム[CHSP]のウェルネスとリエイブルメントに関するアウトカム報告:2019–2020) (9/7、政府報告書)**
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/outcomes-of-the-commonwealth-home-support-programme-chsp-wellness-and-reablement-report-2019-2020> (全文へのリンクあり)
 - 保健省は2020年後半、ウェルネスとリエイブルメントに関する3度目の年次調査をオンラインで行った。対象は、すべての州および準州のCHSPサービス事業者であり、1,321か所から回答を得られた。ベースラインのデータは2019年に収集され、これは1,295か所の事業者からの回答に基づいている。今回の報告では、過去2回との比較を行い、進捗や傾向を分析している。前年度の結果と同様に、大半の事業者でリエイブルメントアプローチのメリットが見られ、身体や認知面で利用者の状況が回復(一部回復も含む)していた。他方、食事、住宅メンテナンスおよび移送については、ウェルネスやリエイブルメントアプローチに課題が見られた。

- **オーストラリア: Home Care Packages Program Operational Manual(在宅ケアパッケージプログラム運営マニュアル(9/12、政府マニュアル))**
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/home-care-packages-program-operational-manual-a-guide-for-home-care-providers> (事業者向け:全文へのリンクあり)
 - <https://www.myagedcare.gov.au/publications/home-care-packages-manual-pdf> (消費者向け:全文へのリンクあり)
 - パッケージプログラムのマニュアルは「事業者」向けと「消費者」向けで2種類あり、それぞれ若干内容が異なる。
 - ◇ 事業者:承認を受けた在宅ケア事業者を対象としており、責任を持ってプログラム運営を行えるようにすることを目指している。内容としては、プログラムの概要、権利と責任、プログラム事業者としての認定、プログラム運営プロセス、事務や金銭面などがカバーされている。
 - ◇ 消費者:消費者向けマニュアルでは、プログラム概要のほか、プログラム申請・利用方法やサービスの範囲、金銭面の内容などがカバーされている。

- **オーストラリア: Dementia in Australia 2021 report(オーストラリアの認知症:2021年報告)**

(9/20、政府報告書)

- <https://www.aihw.gov.au/reports/dementia/dementia-in-aus/contents/about> (HTML および PDF での全文へのリンクあり)
- <https://www.health.gov.au/news/dementia-in-australia-report>
- 認知症行動週間(9/20~26)とあわせて、認知症に関する新たな報告書が発表された。この報告書には、認知症の概要や医療・高齢者ケアシステムへの影響、最近の認知症研究や政策などが記載されている。また当事者やその支援者の視点も紹介している。オーストラリアには認知症の人が約 47 万おり、人口高齢化に伴ってその数は、2058 年までに 2 倍以上になると予測されている。オーストラリア政府では 2 億 2,940 万豪ドルを投じて、認知症のケアや支援改善に取り組んでおり、その主な内容は以下の通りである。
 - ◇ 組織内で認知症リーダーとなるケアワーカーを毎年 3,000 人以上養成するとともに、1,000 人の医師にも追加的な研修を行う。
 - ◇ 自宅で生活する認知症の人を対象とした、カウンセリングや教育など早期の支援サービスを増加し(約 3 万人へ)、自宅で自立生活を継続できるようにする。
 - ◇ レスパイトの場を増やす。

● ニュージーランド: Better Later Life Action Plan 2021-2024(より良いシニアライフ行動計画 2021-2024) (9/30、政府計画)

- <https://officeforseniors.govt.nz/latest-news/better-later-life-action-plan-launched/> (全文へのリンクあり)
- 高齢者担当相のアイシャ・ヴァーラル氏は9月30日、同計画を発表し、ニュージーランドの高齢者の未来を改善していくための道筋を示した。この計画では、今後3年間にわたる政府の優先事項やコミットメントをまとめている。計画では優先分野として「雇用」「住宅」「デジタル包摂」を挙げ、現在進行中の取り組みや今後の方向性などを示している。